

50年続く町工場の「かわさきマイスター」 日本の工業技術と伝統の技を融合させた 「金胎麗漆」ブランド

相和シボリ工業

相和シボリ工業(川崎市
高津区新作、大浪忠社長、
044・888・6361、
<http://aiwasibori.com>)
は、「へら絞り歴50年」の職
人大浪忠社長と妻美津江
さん、工場長の長男友和さ
んという家族で切り盛り
する町の工場である。



絞りの作業風景

ランドを立ち上げ
た。
「金胎麗漆」とは、
へら絞りで美しい
曲線に仕上げたス
テンス製のコッ
プの表面を研磨し、
漆をかけるという
贅沢な逸品である。『金胎』は、工
芸用語で金属のボディという意味
です。そして、『麗』という字は、
語源の中に『うるしが美しい様子
を麗しいと呼んだ説』があり、それ
を気に入って採用しました」と、
大浪友和工場長は命名の由来を語
る。同社が加工したタンブラーを、
Apple社の「iPod」背面の美しい鏡
面研磨を手がけた小林研業が磨
き、漆工芸家として高い評価を受
けている垣沼旗一氏が漆を塗ると
いう3者によるコラボレーション
で「金胎麗漆」は完成する。日本の
工業技術と伝統の技の融合が生み
出した奇跡の一品といえる。異な
る「業」と「技」の融合を、ぜひお
手に取ってお確かめいただきたい。



大浪忠社長

スター」に認
定された。ま
た、平成24年
には「金胎麗
漆」というブ

普通の金属加工業は加工できる
金属素材に得手不得手があるが、
同社では、あらゆる金属に対応し、
ビルや工場の外についているダク
トや、自動車のマフラー、野球場の
巨大な照明につける投光器など、
さまざまな成形を手がけてきた。
こうした技術が認められ、平成23
年には、川崎市で平成9年度から
始まった「手」や「道具」を駆使し、
市民の生活を支える「もの」を作
り出す現役技術者「かわさきマイ



「金胎麗漆」ブランド
日本の伝統色で彩色したり、螺鈿を施した製品もある